

こほといせき

小保戸遺跡

(相模原市城山町No.51遺跡)

調査期間 20070201～20091228

所在地 相模原市城山町小倉
地先

時代
旧石器
縄文
古代
中・近世



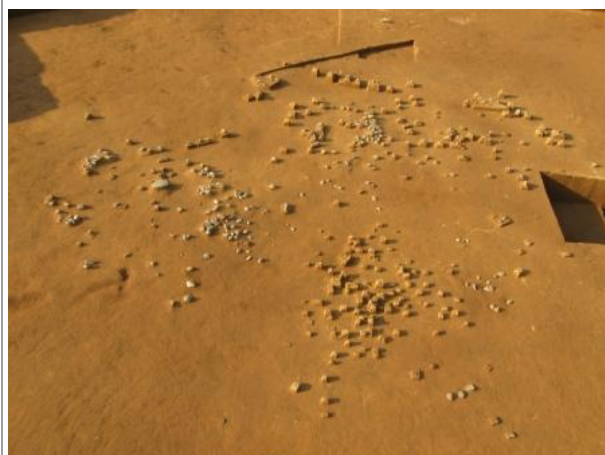
作成日:20090707 更新:20100305

概要

小保戸遺跡の調査は、一般国道468号線(さがみ縦貫道路)建設事業に伴う相模原市城山町小倉の埋蔵文化財発掘調査として2007年2月から実施しました。遺跡は相模川の上流部、串川との合流地点付近右岸の河岸段丘上に位置し、現地表面の標高は約132m前後を測ります。本遺跡西側の一段高位の段丘面上には大保戸遺跡、串川を挟んだ対岸には津久井城跡(馬込地区)が位置しています。調査範囲は全体で約15,000㎡を測ります。これまでの調査で中近世、古代、縄文時代、旧石器時代と幅広い時代の遺構と遺物が確認されました。

今年度の調査においても旧石器時代から近世にかけての遺構と遺物が発見されました。中でも注目されるのは、旧石器時代の環状を呈する礫群が4基発見されたことです。環状を呈する礫群とは、拳大程度の焼けた礫が、ほぼ同一面上から2.5～3.5mほどの外周部に沿って環状に分布を示す遺構です。その環状に廻る礫の内側から台石や大型の剝片等の石器や炭化物が検出されました。

相模原市田名向原遺跡では、旧石器時代の住居状遺構が発見されており、炉跡や柱穴が見つっています。小保戸遺跡で発見された環状礫群では、炉跡や柱穴は見つかりませんが、旧石器時代における住居状遺構の可能性も



▲ 環状礫群検出状況



▲ 第1号礫群検出状況

考えられます。

平成 21 年 12 月末で小保戸・大保戸遺跡の発掘調査は終了し、現在は報告書を作成するために整理作業を実施しています。小保戸遺跡については今年度および来年度、大保戸遺跡については平成 23 年度以降に整理作業を行う予定です。整理作業を通じて、遺構や遺物の詳細な検討を行っていきます。



▲ 第1号礫群石器検出状況